

第69回日本電気泳動学会総会 シンポジウムセッション プログラム

セッション1 若手研究者によるがん研究 up-to-date－電気泳動法の果たす役割－

8月8日(水) 11:00～12:30

座長: 佐藤 雄一, 菊田 一貴

卵巣明細胞癌におけるLefty発現とその臨床的意義

松本 俊英 (北里大学医学部病理学)

低発現癌抗原遺伝子の発現検出における電気泳動の意義

福山 隆 (北里メディカルセンター 研究部門)

Cancer proteomics reveals resistance mechanisms of tyrosine kinase inhibitors in sarcomas

喬 志偉 (国立がん研究センター希少がん研究分野)

分子マトリックス電気泳動を用いた唾液腺腫瘍の糖鎖解析

井坂 栄作 (東京歯科大学 オーラルメディスン 口腔外科学講座)

ユーイング肉腫における小胞体ストレス応答の役割と新規治療法の開発

田邊 雄 (順天堂大学整形外科)

セッション2 比較内分泌から電気泳動への秋波

8月8日(水) 15:00～16:30

座長: 小寺 義男, 高橋 明義

光環境と魚類～体色・成長との繋がり

高橋 明義 (北里大学海洋生命科学部)

カレイ目魚類における視物質遺伝子の分子進化

笠木 聡 (北里大学海洋生命科学部)

明暗周期の変容が脳の発達へ及ぼす影響

原口 省吾 (昭和大学医学部)

動物の季節適応機構の解明とその応用

吉村 崇 (名古屋大学大学院農学部)

セッション3 生命科学の未来を紡ぐ最新の電気泳動技術

8月8日(水) 16:30～18:00

座長: 木下 英司, 木村 弥生

メタロタンパク質マッピング法としてのMICS-BN-PAGEに関する最新トピック

齋藤 伸吾 (埼玉大学)

ペプチド代謝活性の網羅的解析(enzymomics)による疾患関連タンパク質の探索

小松 徹 (東京大学)

超分子ヒドロゲルを用いた生体高分子の電気泳動

山中 正道 (静岡大学)

凹凸型カートリッジ接続デバイスを用いた多次元デジタル電気泳動分画法の開発

末吉 健志 (大阪府立大学大学院工学研究科)

Phos-tag結合型光硬化性アクリルアミドによるリン酸化化合物のオンライン特異的濃縮とマイクロチップ電気泳動分離

山本 佐知雄 (近畿大学薬学部 創薬科学科)

第2日目

セッション4 様々な翻訳後修飾にせまる電気泳動

8月9日(木) 9:30~11:00

座長: 平野 久, 亀山 昭彦

Phos-tag SDS-PAGEを用いたRabリン酸化の解析

伊藤 弦太 (東京大学大学院 薬学研究科)

電気泳動による翻訳後修飾の解析 タンパク質レチノイル化の機能解析に関する新展開

高橋 典子 (星薬科大学 医薬品化学研究所 衛生化学・病態機能制御学)

O-GlcNAc化蛋白質の検出と定量的解析を可能にするレクチン親和性ゲル電気泳動法の開発と応用

久保田 裕二 (東京大学医科学研究所 分子シグナル制御分野)

グライコーム/グライコプロテオーム解析技術としての電気泳動の可能性

木下 充弘 (近畿大学薬学部)

分子マトリックス電気泳動で解明する唾液腺ムチンの加齢変化

亀山 昭彦 (産業技術総合研究所)

セッション5 臨床医学の最新情報

8月9日(木) 11:00~12:30

座長: 伊東 文生, 安井 寛

2D-DIGEを用いた自己免疫疾患のバイオマーカーおよび薬剤の新規作用の探索

黒川 真奈絵 (聖マリアンナ医科大学大学院 疾患バイオマーカー・標的分子制御学)

がんのnon-coding RNA異常およびエピゲノム異常の解析とその応用

鈴木 拓 (札幌医科大学 分子生物学講座)

セッション6 プロテオミクスの最新技術の基礎から応用まで

8月9日(木) 15:00~16:30

座長: 榊原 陽一, 藏満 保宏

はじめに

藏満 保宏 (北海道医療大学 がん予防研究所)

タイトル未定

荒木 令江 (熊本大学大学院 生命科学研究部 腫瘍医学分野)

悪性骨軟部腫瘍の個別化医療を目指したバイオマーカー開発のためのプロテオーム解析

菊田 一貴 (栃木県立がんセンター 骨軟部腫瘍・整形外科)

タイトル未定

石濱 泰 (京都大学大学院 薬学研究科)

まとめと来年のアナウンス

榊原 陽一 (宮崎大学農学部応用生物科学科 生体分子機能化学研究室)